

第3回第二期高知市中心市街地活性化基本計画策定検討委員会 議事概要

○日時 平成 29 年 5 月 25 日(木) 13:30～15:30

○場所 高知市たかじょう庁舎 6階 会議室

○出席者【委員 13 名】

委員長	広末 幸彦	副委員長	古谷 純代
委員	西村 修一	委員	早川 賢治
委員	山添 真理	委員	小島 尚
委員	友田 由美	委員	亀川 代平
委員	高橋 政明	委員	笹岡 和泉
委員	大谷 聡	委員	熊野 裕二
委員	松本 明		

【オブザーバー】

池田 義明	竹島 健児
門吉 直人	朝比奈 正敏
杉本 雅敏	橋詰 辰男

【事務局】

高知市商工観光部長 松村 和明
高知市商工観光部商工振興課長 谷浴 新也
高知市商工観光部商工振興課 課長補佐 松岡 宏輔 外
株式会社第一コンサルタンツ

○次第

1 開会

2 新委員, オブザーバーの紹介

3 議事

(1)中心市街地活性化に向けた基本方針, 目標・指標及び計画区域の設定 (説明:事務局)

■質疑等

【委員】

指標に対する考え方だが, プラスになればよしとするのか。この数値が上がることを目指しているのか。

【事務局】

指標によって違うと考えている。居住人口の割合については, 現行の計画が目標値を達成するということで, 今後は現状維持というイメージを持っている。公共交通利用者数については, これから数値の設定を検討していくが, 一定, 利用者の増加を目指していこうと思っている。歩行者通行量については, エリア全体と

しては増加傾向にある中で、今回課題となっている東エリア及びその周辺で増加していく目標とする必要があると考えている。拠点施設入館者数については、目標値を達成しているので、維持に近いレベルになっていくと思っている。

【委員】

中心市街地で生活が完結することを目標にしていると認識してよいか。

【事務局】

高齢者の方や障害者の方でも生活しやすいことをイメージすると、一定、この中心市街地で生活が完結できる方向性がいいのではないかと考えている。

【委員】

指標4「拠点施設入館者数」について、現在、既存している施設のみだと思うが、本来、消費者から求められる機能を持った施設(映画館、スポーツクラブ、スーパーマーケット等)がない以上、指標として図れない。今ある施設だけで利用者数をカウントしても、あまり意味がないのではないか。全ての施設の中で、どのくらい利用すべき利用者がどれだけいるのか、充足しているのか、そういった観点も必要と思う。

【事務局】

現在イメージしているのは、中心市街地の拠点施設として、とさてらす、高知城歴史博物館、オーテピア、よさこい情報交流館、かるぼーとといった施設がある。拠点施設間のつながりによって回遊性が高まっていけば、それぞれの施設で入館者数が増加していくとイメージしている。今ない施設についての検討は厳しいと思う。イメージとしては、公的拠点施設の入館者数について示している。

【委員】

資料1の1ページ、一番下部に示している上位・関連計画との整合について、ここで示されている行政計画だが、私達が関連しているものとして「高知市文化振興ビジョン」があり、現在、見直し作業が行われている。その中で、文化振興の主な領域ということで「芸術・歴史・食・まんが・高知らしさ」という5つの領域が示されている。この5つの領域の中の、食・まんが・高知らしさの具体的な取組事項として、本計画に関連する事業が掲載しているので、関連計画として含めるべきである。

【事務局】

関連計画については、全てを書き切れていない。書き切れていないものについては、追加する。

【委員】

今回の資料では、どのように改善してこの事業が成り立っているのか分かりづらい。せっかく課題があつて方針が決まったのであれば、それに沿った事業がどのように計画されて進んでいくのかということを、しっかり検討していけばいい。

【事務局】

事業について検討していかなければならないと思っている。後段で登載事業について説明するが、今回は行政主体の事業を提示するが、これだけでは十分でなく、委員の皆様から目標、指標を達成できるような事業の提案もお願いしたい。

【委員】

平成 26 年 10 月に現在のときでん交通となったが、電車については、ここ5年間は下げ止まっている。電車の利用者数は、最盛期は年間 3,000 万人であったが、ここ5年間は 600 万人程度で最盛期の1/5となっている。一方、バスについては、データのあるピークが昭和 40 年時、5,300 万人、直近が 580 万人で1割強となっている。中心市街地に出てくる交通手段として寂しい状況が続いているが、その中でも利用増を図るためいろいろな施策を行っている。

指標として、公共交通利用者数に加えて、自動車の利用が多いので駐車場の利用状況を盛り込む。あるいは、空き店舗率や、中央公園でのイベントを一つの指標にする等、複数の指標の柱とすることを検討してほしい。

【委員長】

資料1で説明のあった課題から目標・指標までの流れがこれでいいのか、再度検討してほしい。

中央公園地下駐車場は今年1月から基本料金が 200 円に減額となり、利用台数も増加している。それらも含めた駐車場サービスの向上があればいいと思う。

【委員】

方針と目標の関係性について、方針1～3を目標1、方針4～6を目標2として分けて考えているが、本当にこの分類でいいのかと思っている。方針1は目標2につながるのではないか。方針2、3のみが目標1に該当するのではないか。それを踏まえて指標に対する考え方だが、もし目標1を“訪れるにも便利、過ごすにも便利、暮らすにも便利なまち”とするのであれば、指標1の位置付けに違和感を持っている。居住人口の割合を重視していると示す以上、中心市街地の発展ということを打ち出すシグナルとなると思う。居住人口の割合を出すことは、あまりよくない結果を生み出す気がする。中心市街地から出て行く人を減らすことを目標とした指標にした方がいいかと思う。

【委員】

中核となるターゲットはどの世代で設定しているのか。時間消費について、時間帯を分けて検討するのも一つの方策ではないか。ターゲットとなる中核をもう少し切り取ることで、より効果的な施策が出てくるのではないかと思う。

【事務局】

人口の割合については、「高知市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」の中でも、2060 年に 28 万人と目標を掲げているので、それに合わせる形で検討している。現行計画の目標が達成できそうなので、中心市街地では維持していけるよう設定した指標で提案している。

割合という表現の仕方を事務局で少し検討する。ターゲットについては、将来のことを考えると、若い世代をターゲットにすることが望ましいと思うが、現時点では高知市の施策として、全ての年齢層・全ての世代をターゲットとしている。ただ、個別の事業の中では、それぞれの年齢等で絞れてくるのではないかと考えている。

【委員】

おおまかな指標や課題がある中で、最終的な目的や結論をここですべて表すわけにはいかず、このような状態になっていると思う。今後、様々な事業が出てくる中で、その事業に合った目標を設定するのか、それとも今ある目標に沿った事業をしていくのか。

(2)計画に搭載する事業の検討(説明:事務局)

■質疑等

【委員】

毎年、秋に開催されている「ラ・ラ・ラ音楽祭」は事業番号 30 番の商店街イベントの中に含むという考え方でよろしいか。

エリアとも関連するが、38 番「芸術文化振興事業」の事業内容に「県民文化ホールやかるぽーとで」という記載があるが、県民文化ホールは事業エリアから外れている。その辺りはどのように考えているのか。

【事務局】

「ラ・ラ・ラ音楽祭」については、今まで商店街イベント事業に含んでいなかった。

【委員】

文言の修正に関して、エリアはこのままで個別事業の文言のみを修正するのか。県民文化ホールがあることで、年間を通じて、様々な事業が行われている。旧中央公民館部分で各種の会議も行われていることも考えると、中心市街地への来街を促進する大きな拠点施設であり、そう考えるとエリアの中にいれるべきではないか。

【事務局】

計画区域は国から示されたものではないので、県民文化ホールを含むエリアについても検討する。

【委員】

上位・関連計画との整合について、「高知市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中の位置づけで「地域間の連携」という文言があるが、中心市街地が他の地域との連携においてどのような役割を果たすのかを記載してはどうか。例えば、県外からの窓口となるし、県内での活動はここで集約してできるという意味を持つと思うので、少し位置づけられると連携・整合と書かれている部分の意味が明確になるのではないかと思う。

方針から目標、指標に至る流れが、少しざっくりしている。指標は2種類の指標があると思われる。1つは代表的で全体的な傾向を表し、継続的に統計がとれる指標。その点においては指標1～4は優れていると思う。

一方で、網羅的で多面的で全体像を細かく見ていく指標があると良いと思う。それを全部指標化してしまう

と各事業の目標・指標と近づいてしまうのだが、目標・指標をグルーピング化して、サブ指標という形で提示することで、活動の質的側面が、経済面の効果などを含めて多面的に示しやすくなる。

現計画では消費者にとって暮らしやすい形となっている。消費者だけでなくビジネスをする人にとっても重要だし、あるいは学生を含め自分たちで活動を生み出す側の人にとっても過ごしやすくクリエイティブな街づくりというところが重要かなと思う。具体的になるが、高知には仕事する時、過ごす場所が少ない。市街地の中でサロンのような空間があれば、活動の質につながっていくのではないかな。

インバウンドの観点でいくと、クリエイティビティの他にもう一つサステナビリティ(環境にも人にも社会にも優しい街)が都市環境整備の中でキーワードとなっている。環境の観点が若干薄いかなと思う。新たに全く違う対策を入れてほしいというよりは、回遊性をあげたり公共交通機関の利便性をあげたりすることは環境面でも効果がある。そういった面で資するという点を入れるといいかなと思う。

【委員】

かるぽーと西側の観光バスターミナルはエリアに入っているのか。入っていないければ、変更を検討いただきたい。

【事務局】

入っていると思うが、確認して次回報告する。

【委員】

あくまで目標は目標。指標は指標。指標が達成できなくても目標は達成できる。指標は参考であり、これを達成しないとだめという計画では計画倒れになってしまう。途中で達成できないから新しいことをしなければならなくなると、全体としての整合性が狂ってしまう。指標は指標という位置づけを持っていただいた方が、全体的に目標が達成できるのではないかなと思う。

経済性の効果については、データがほとんどないのでおそらく無理だと思う。例えば観光でいえば観光客の資質やそれに伴う売り上げ等のデータはない。市町村内総生産のデータも最新が2013年である。リアルタイムのデータがあれば分析は可能であるが、リアルタイムなデータがない以上、指標にするのは難しいと思われる。

【委員】

中心商店街の東エリアをなんとかしていきたいとのことだったが、事業の17番「高知よさこい交流館運営事業」について、事業が継続になっているが、何か新しい事業はないのか。

【事務局】

よさこい交流館だが、つくる時に5年で1度ありかた等を見直すことになっている。そのため指定管理期間が2年間あり、その中でどうしていくか検討していく予定である。

【委員】

事業39番「街なか空間有効活用事業」について。土佐のおきゃくの事務局メンバーをしている。はりまや

橋商店街の南側に公園があるのだが、そこを利用して観光客を誘客できないか事務局及び実行委員で考えている。こういう事業の中で新しいことができればいいと思っているので、その時は協力をお願いしたい。

【委員長】

事業 31 番、32 番は“新規”となっているが、現在、実行委員会方式で行っているが、この事業に載せるということは今までのことを継続しながらより中心市街地活性化の助けになるということで、高知市が積極的に協力していくという考えなのか。

【事務局】

事業 31 番・32 番については、1期計画では「街なか季節イベント」として一事業として掲載していた。今回、2期計画で 31 番「食のイベント」事業、32 番「春花まつり」事業と個別事業としたため新規事業となっている。支援については従来から変更なしである。

【委員】

かるぼーと付近に電停を整備することはできないか。かるぼーとの年間来館者数が約 45 万人、そのうち 50%弱が私達が行っている事業の来客数となる。ほとんどの利用者が「交通の便が悪い」と意見をいただいている。

【委員】

かるぼーと付近に電停についてだが、事業者としてはやぶさかではないと思っている。しかし、国道に接続する“はりまや町一宮線”において様々な課題があるため、私達だけでは解決できない。関係機関と話し合いながら進めていけば、進んでいくのではないかとと思っている。

【委員長】

国へ申請する計画を策定しているので、この計画に搭載していたら議論の場にはなるかと思い、公共交通の利便増進のための事業で、バス停整備事業とともに電停整備事業”も搭載したらよいのではないかと考えている。

【委員】

現在、“タウンモビリティステーションふくねこ”では、タウンモビリティ機能以外の機能が増えている。その1つが観光案内所としての機能で、私達だけでは運営が厳しくなっているため、商店街の皆様や行政との連携が必要である。

高知城、ひろめ市場へ行きたいのに、京町で車いすやベビーカーを借りてまた戻ってきて返却ということで、借りた方が不便に感じている。商店街の西に一つ東に一つ拠点を構えたら、もっと利用しやすいのではないかと感じている。

【委員長】

タウンモビリティの事業をしているのに、どちらかといえば観光案内所になっている。常設の観光案内所を設けるべきではないか。現在、よさこい交流館があるがクローズになっていて観光案内所とはみえない。そうになると、ふくねこのタウンモビリティステーションになる。次の観光案内所といえばひろめ市場までないので、商店街のどこかにとと思う。観光資源の活用ということで観光客に対応する事業を新規で投入してはどうか。

【事務局】

観光案内所という話があったが、現在、県下全域を対象とした「連携中枢都市圏構想」の検討に入っており、そういった意見も出てきている。その中で実現可能かということも検討しながら事業化に向けて可能性を探っているところである。その事業については、計画変更で事業追加するという対応もできると思うので、現段階では含めず検討していきたい。

【委員長】

タウンモビリティステーションパート2も観光案内所も始めから計画に含めてもらえば本当に助かる。

【委員】

日曜市で感じるのは空き小間がかなり多い。観光客だけではなく県内の方にも訪れてほしい。そのためには、チャレンジできる企画を打ち出してはどうか。

壱番街については、高知大丸がイベントを行っている時は、商店街が賑わっており、街自体が明るく気分も楽しくなる。しかし、空き店舗が目立っているのは、美観的に少し寂しい感じがする。壱番街が秋に行うイベントも志向を変えてやっっていこうと思っている。

【事務局】

日曜市については、街路市活性化構想のなかで順次進めている。連携中枢都市圏構想のなかでも、各市町村の地場産品を出せないかとかいろいろな検討がなされている。日曜市は市民の方に生活利用もやっていかないと、ということで進めている。そこも、事業化となったら計画に載せるということも考えている。

【委員】

具体的な話はできないが、来年秋以降に高知大丸のリニューアルを考えている。例えば観光案内所などに場所を格安でお貸しして運営していきたいと考えている。従来の百貨店MD(マーチャンダイジング)にとらわれないやり方を、今後、我々百貨店業界でやっっていこうかなと考えている。百貨店MDプラス定借という形で、商品だけでなく交流的なものや来街者に喜んでもらえる施設などを取り入れながら、ハイブリッド型百貨店を目指していこうと考えている。

中心商店街の回遊性について、当社のウイングカードは16万人の方が利用していただいているが、稼働しているのは半数の8万人。来年の夏までに打ち切り、新しく信販会社と提携して高知大丸カードとして移行していこうとしている。新カードは信販会社と提携することによって高知大丸だけではなく、商店街で買い物した際もポイントが加算され、そのポイントで高知大丸でも買い物ができるようになっている。カードの戦略として商店街と一緒に逗留策をとっていききたいと思っている。こちらも現在進行中で今秋から募集し、来年夏に

は稼働させていきたいと考えている。

【委員】

食や観光は恒久的にそこにあるからこそ観光客が訪れてくれる。単発的なイベントだけでは観光客は網羅できない。地域の魅力として根付かせることを目標として、どのようなイベントを組んでいくかというのがすごく重要。

商店街の中にも飲食サービス業が増えてきた。来客される方に何をどう売って訴えるのか。それに対してどういう方法に持っていくのか。それに対してどういう指標を出してどう判断をしていくのか。こういった流れを計画にきちっと入れてもらって、こういったイベントを入れていったり新たなイベントを創出していかなければならないとか、皆さんから意見が出てくると思う。商店街としては中心市街地活性化というのは、事業の集まりではなくどういう街づくりをしていくのかというのが大本だと思うので、そういう切り口のやり方、そういう計画がここに明確にしてくるとそれぞれの事業において目標なり指標なりもう少しわかりやすくなっていくのではないかな。この事業計画の中にも“食で観光地として魅力を持っていきましょう”という大テーマの中で入れていただいたら、商店街でも市町村の方々とも連携するようになるし観光客も一見さんではなくリピーターにもなる。リピーターになる仕掛けをつくることによって中心市街地としての役割を果たしていく。ここがたぶん中心市街地活性化の肝となる気がする。そういったことも事業にどんどん含んでもらいたいと思う。

【委員】

いろいろなことが明確になる上で最も大事なことが即応性だと思う。先ほどの市からの回答では観光案内所ができるよう検討するということであった。できるかできないかは時間がかかると思う。観光案内所だけでなく“観光コンシェルジュ”というような数人でできる方法はどうか。観光客の方は些細なことを聞きたいそうなので、そのことを教えてあげられ、高知を知っている学生ボランティアを商店街に待機させて活用するということが、即応性につながるのではないかな。

委員から話のありました日曜日活性化については、出店に厳しい規約があると聞いているが、規約のハードルを少し下げて、お試し出店とか様々な企画イベントを見いだすことで活性化につながるのではないかな。

【委員長】

いろいろ意見が出たので事務局の方でまとめていただいて、次回までに修正等をお願いする。

【オブザーバー】

高知市の方でも「都市計画マスタープラン」と「立地適正化計画」において、中心市街地への誘導とか都市機能をできるだけコンパクトにしていく施策を掲げている中で、中心部に魅力がなければいけないと考えている。都市計画の中で、できる部分は検討していかないといけないと思っているので、皆様の意見をお聞きしながら検討していきたい。

委員から話のありました電停の件については、ネックになっているのは北側に通じる“はりまや町一宮線”が止まったままであること。今年度、県の方が協議会を立ち上げて方向性について結論を出すことになっている。その結論が出ないと、そこから先の整備ができないのもう少し時間をいただきたい。

【オブザーバー】

高知駅の南東にマンション計画があるが、地元の方が“建設反対”と看板を結構出しているが、市は直接関係ないと思うが、高さ制限や北側斜線制限とかはないのか。

【事務局】

高さ制限については、高知城周辺(市役所から北は県警, 東は追手前高校のエリア)だけが28mの高さ制限のエリアになっている。駅前については、高さ制限はない。

【事務局】

第2回の検討委員会の中で、資料2 中心市街地の現状分析(P.7)「飲食・サービス他とあるが他とはどういうものが含まれるか」と質問をいただいていた。その回答だが、商店街振興組合事務所、保険代理店、就職支援相談センター、派遣会社、歯科等となっており、毎年、10件前後で推移しているという内容になっているので、補足で説明させていただく。

4 その他

事務局から、第4回検討委員会を平成29年8月頃に開催することを報告

5 閉会

以上